

子どもの学ぼうとする意欲を高め、確かな学力の向上を図るために(2年次)

—わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業の在り方—

森 文子(京都市総合教育センター研究課 研究員)

学習意欲が確かな学力の三要素の一つとして位置付けられたのは、平成19年に改訂された学校教育法である。「児童の学習意欲を高めるためには」という問題は、現在も問い続けられている。昨年度は、「他者受容感」「有能感」「自己決定感」を育てることができると考えた七つの集団活動を授業に取り入れ、「質の高い学習集団」を育てることを目指し、子どもたちの主体的に活動する姿を見ることができた。今年度は、わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業の在り方として、見通し・振り返り学習活動の充実を掲げ、昨年度に取り組んだいくつかの活動をもとに授業実践を行い、学ぼうとする意欲を高めることを目指した。

第1章 子どもの学ぼうとする意欲を高めるために

第1節 わかる喜びと学ぶ楽しさ

わかる喜びと学ぶ楽しさはどちらも子どもの学ぼうとする意欲と高める要因の一つである。わかる喜びや学ぶ楽しさが起こる要因として、知的好奇心や学習意欲のみならずとされている有能感、自己決定感、他者受容感が挙げられる。

これらを踏まえ、子どもがわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業を展開するために、指導者に重要だと考える視点を、以下にまとめた。

- I. 既存の知識を把握し、適度なズレがある学習課題を設定することで、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができるようにすること
- II. 学んだことを確認できるように、振り返りの活動を取り入れること
- III. 互いに高め合うことのできる温かい学習集団を作ること

これらの視点から、見通し活動と振り返り活動はわかる喜びと学ぶ楽しさを実感するための重要な活動であることがわかる。そして、この二つの活動は対でとらえていくべきであると考えた。

第2節 見通し・振り返り学習活動と子どもの学ぼうとする意欲の関係

見通し・振り返り学習活動は現行の学習指導要領総則に「計画的に取り入れるよう工夫すること」として位置付けられており、全国学力・学習状況調査では、平均正答率や学習意欲に関する項目との相関が見られている。一方で、学校が見通し・振り返り学習活動を取り入れたと考えていても、そのように受け取っていない子どもが約2割存在することが示された。

このことから、見通し・振り返り学習活動の内容の充実が求められている。

第2章 わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業を目指して

第1節 見通し・振り返り学習活動とは

見通し・振り返り学習活動は、単元におけるものと一時間の授業におけるものがあると考えた。

単元を見通す活動は、単元の学習活動全体を動機付けるものである。また、単元を振り返る活動によって、その単元で付いた力を実感することができる。

一時間の授業における見通し活動では、目標や課題・問題の確認、学習方法の見通しといった「学ぶことの確認」を行う。また、一時間の授業における振り返り活動では、目標の達成度、学習内容の確認、学習方法の振り返りといった「学んだことの確認」を行う。これらを踏まえ、視点を明確にし、子どもたちが見通しをもったり、振り返りを行ったりすることや、見通し・振り返りを一対として意図的・計画的に位置付けることができるようにすることが充実につながると考えた。

第2節 見通し・振り返り学習活動の充実

見通し・振り返り学習活動の充実を図るために、以下に示す三つの方策を考えた。

- ・見通し活動や振り返り活動を行う際に、二人組の伝え合い活動を取り入れること
- ・伝え合い活動の前後に、理解度カードを示すこと
- ・授業プランニングシートを用いて、授業案を作成すること

見通し活動や振り返り活動では、指導者の設定した理解度カードの基準をもとに、子どもたちがカードを示し、伝え合い活動を経て、再度カードを示すこととした。また、プランニングシートの作成時には、単元の振り返りとなる終末の姿の設定、単元の見通しとなる第1時の在り方、毎時の展開や理解度カードの基準を考えることとした。

第3章 授業実践を通して

第1節 第3学年の授業実践から

◆算数科「たし算とひき算」

本単元では、理解度カードの基準を、単元を通して、以下のように設定した。

<見通し活動>

3 本時のめあてと取り組む問題がわかり、前時に学習した考えを使って、解法を説明することができる

2 本時のめあてと取り組む問題がわかる

1 本時のめあてや取り組む問題がわからない

<振り返り活動>

3 集団解決で行った問題の加数もしくは減数の一の位を自分で好きな数字に変えたものの計算の仕方を説明できる

2 集団解決で行った問題の計算の仕方を説明できる

1 集団解決で行った問題の計算の仕方を説明できない

単元後半では、前時に振り返ったことを子どもたちがめあてとして設定しようとする姿が見られた。振り返り活動では、半数以上の子どもたちが授業で取り上げた問題ではなく、自作の問題について説明しようとしていた。

◆音楽科「せんりつの変化や音色を楽しみながら、演奏したりきいたりしよう」

本題材では、音楽を形づくっている要素を音楽の「ひみつ」とし、ひみつの数を理解度カードの基準に取り入れた。見通し活動を行ったあと、子どもたちが課題に対して新しい視点をもつことができ、見通し活動を行う前の意見に付け足して、全体の場で発言する様子が見られた。振り返り活動では、見つけたひみつについての気付きを友だちに伝えることができていた。

◆理科「太陽のうごきと地面のようすをしらべよう」

本単元では、見通し活動において、学習問題やめあてだけではなく、自分の予想を伝えることを理解度カードの基準の中に設定し、振り返り活動においては、観察や実験の結果と考察を伝えることを設定した。単元前半では予想を立てられなかった子どもが、後半では自分の予想を相手に伝えることができるようになった。

第2節 第5学年の授業実践から

◆算数科「分数」

本単元では、単元を通して、毎時同じ理解度カードの基準で見通し・振り返り学習活動を行った。単元の見通しをもつために導入で取り上げた問題を、学習が進み、既習となった時間に振り返り活動の中で取り挙げることで、当初できなかった問題ができるようになったという経験をし、成長を実感する様子が見られた。

◆外国語活動「Lesson6 What do you want?」

本単元では、指導者が提示した「学習の流れ」をもとに、子どもたちが自分のめあてを立てることを理解度カードの基準として設定した。見通し活動において、自分のめあてを立てることで、目的意識をもって、活動に取り組むことができた。また、振り返り活動で、伝え合った相手のめあてや達成状況を知ることができ、自分の学習の役に立ったと感じていた。

◆国語科「説明のしかたの工夫を見つけ、自分の意見を理由付けを明確にして書こう」

本単元では、「読むこと」を中心に活動を行うときと「書くこと」を中心に活動を行うときで、理解度カードの基準を変えた。見通し・振り返り学習活動を行うことで、友だちの意見を参考にすることができ、「見通しをもつことができるようになった」、「自分の学習に役に立った」と実感していた。

第4章 確かな学力の向上を図るために

第1節 研究の成果と課題

本研究で設定した見通し・振り返り学習活動を行うことで、以下の成果が見られた。

- ◎見通し活動では、友だちの意見を参考にすることができるため、自分だけではわからなかったことがわかり、意欲的に問題解決に取り組むことができた
- ◎振り返り活動では、見通し活動と一対とし、一日の学習内容を振り返ることや、できなかったことができるようになったと実感することができた

また、充実を図る方策については、以下のような成果が見られた。

- ◎伝え合い活動を行うことで、友だちの考えを参考にしたり、自分の意見を整理したりすることができた
- ◎理解度カードを使用することで、子どもは自分の状態を数値で確かめることができ、指導者は、数字を見取ることで、子どもに応じた支援を行うことができた
- ◎授業プランニングシートを作成することで、指導者が見通しをもって授業に臨むことができることがわかった

教科等の内容によっては、理解度カードの基準の設定が難しいものもあるが、見通し活動と振り返り活動の関連性を重視した基準の設定ができれば、より効果が高まると考える。

第2節 今後の取組に向けて

見通し・振り返り学習活動の視点を明確にし、意図的・計画的に授業に位置付ける取組を継続し、習慣化することが、子どもの主体的に学ぼうとする姿につながる。更に、わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できるようにするため、子どもたち自身が見通しをもち、振り返りをできるように、指導者が支援しなければならない。